Keyword 石　岩　写真　記憶

石と岩の記憶

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2025年3月修了

鄧 名傑

主査 百瀬 俊哉　**副査** 大日方 欣一　佐藤 慈

研究背景

石や岩の表面には、風化や侵食、そして苔などの自然の痕跡が刻まれています。これらの痕跡は、時間と環境の影響を象徴し、亀裂や凹凸から時の積み重ねを感じることができます。風化や侵食の跡は、まるで時間が刻んだ記憶のようであり、人生の転機や時の流れを思い起こさせます。

石と岩は、それぞれ異なる感覚や象徴を持っています。石の軽さや持ち運びやすさは、記憶の具体的な象徴と言えます。幼少期に拾った石や旅先で無意識に持ち帰った石には、特定の瞬間の記憶が宿っています。これらの石は、人生の一瞬一瞬を切り取ったように、個々の経験を象徴しています。一方で、岩は生活経験の積み重ねや成長の痕跡を表します。その重さや大きさは、人生を通じて積み上げられた経験や知識を彷彿とさせます。岩に刻まれた亀裂や変化は、私が経験してきた課題や成長を反映し、層状の岩層は、時間が私の成長と内面をどのように形作ったかを示しています。

研究目的

私は、石や岩の視覚的特徴、テクスチャー、色、形状が、自然や時間の変化をどのように表現するかを探求しています。これらの要素は、環境の変遷を記録すると同時に、私自身の留学過程における感情や心境の変化をも反映しています。台湾から日本への留学過程での記憶や感情は、私が石を選び解釈する際に大きな影響を与え、それらは写真作品にも反映されています。石や岩は、私の記憶や感情の変化を象徴する媒体となり、それを具体的に作品として描き出しています。

研究概要

成果・まとめ

留学中、日本の自然風景に触れる中で、石や岩を通じて自身の感情や記憶と向き合う機会が増えました。初めて日本に来たときの不安や戸惑いは、硬く静かな岩が象徴する力強さに似ています。そして、時間とともに環境に溶け込む過程で、自然との深いつながりを感じるようになりました。屋久島の苔むした岩や菊池渓谷の水に磨かれた石は、私の内面的な成長や感情の変化を映し出し、石や岩が記憶と感情を運ぶ媒体であることを実感させてくれました。撮影では、石の質感や形状を通じて時間の痕跡や感情の深さを表現し、自然の流動性と安定感の対比を探求しています。これらの作品は、石や岩を単なる自然物としてではなく、私が留学生活で経験した変化や成長の象徴として視覚化しています。それによって、記憶や感情の深い反映を提示し、独自の視点で表現しています。

指導教員コメント

石や岩を記憶や感情の象徴として表現するというこの視点には、独自性と深い洞察が感じられます。自身の成長や留学経験が反映されたこれらの作品群は、大変意義深いものです。今後もこの独自の視点をさらに磨き、自然と自身の内面をつなぐ表現に取り組むことで、より多くの人々に感動を与える作品を生み出していってください。

百瀬 俊哉